

主な行動報告&予定

- 1月** 成人式（不安1割・安心1割・期待8割）
 青少年育成市民会議（各立場の積極性期待・持論展開）
 名城大学理事面会（経過報告と最大現の努力約束聞く）
 後援会総会（議会報告・年度計画・懇親会全て満点？）
 横笛九華初吹会（小中校生徒の演奏、お見事に尽きる）

- 2月** 総務企画委員会（Kルート・消防団処遇改善）
 市伝統文化こども日本舞踊発表会（子供の可能性感嘆）
 可児高校議会（若き人らに寄する思い）
 予算決算委員会（ア－ラ 音響設備改修工事）
 講演会（川本達志先生・予算の見方、審議のポイント）
 全協（加茂聖苑・農業委員、財産区管理委員選考）
 第1回定例議会（H26年度予算審議開始ゴング）
 総務企画協議会（駅前公共用地機能配置・子育て対策）
 予算決算委員会（可児の進化へ・新年度予算詳細説明）
 環境フェスタ（市民の関心と参加の上乗せを）
 予算決算委員会（職員研修・財務システム・国際交流・
 美濃桃山陶聖地・社会貢献システム・生活保護・
 Kルート・病院助成・介護予防等々質問）
 建設業組合懇談会（会派と忌憚の無い意見交換）
 名城大学議員昇ゼミ（議会基本条例の意義と展開）

- 3月** 広陵中学キャリア教育（トートーバック積極販売体験）
 本会議（執行部から反問多数、進化の証し？）
 中学校卒業式（規律と温かさの調和見事）
 予算決算委員会（揉めに揉めたり、ボランティアとは）
 黒田官兵衛講演会（生涯学習かに・歴史学者原口氏熱弁）
 予算決算委員会（社会貢献制度設計に付帯決議検討）
 本会議（特定秘密保護法案請願に持論で討論）
 退職部長送別会（ミスター反問権去る、ザンネン）
 小学校卒業式（礼節体得、来賓を卒業生が出迎え）
 荒川豊蔵資料館再オープン（次の第3弾にも期待大）

- 予定** 後援会親睦旅行 5月下旬頃
 第2回定例議会 6月3日開会

さかいまさし通信 まゆめなかな



今年も多くの観光客で賑わった鳩吹山麓のカタクリ

ご挨拶



可児市 市議会議員
さかい 正司

座右の銘 広く遠くゆくり

豊かさに繋がる地域力育成に尽力されていることへの感謝と期待でした。

進行する少子高齢化社会の「幸福度」を担う市民力増大に、私も精一杯尽くしたいと存じます。変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

3月は自治会、老人会、自主防災組織など自発的な活動をされている多くの団体の総会が開催され、お招きいただき挨拶をしました。その中心は安全や子育て参加等、心の

まさしの議会活動

■水道料金

水道料金を下げたいと言いつつ、続きがききましたが、残念ながらその願いは叶いませんでした。

県からの受水費が約10%値下げされたのに、料金が据え置き（消費税は別）になった背景と活動の経過を報告致します。

■市水道事業の沿革

昭和30年代に水不足に悩む可児市を含む東濃の11の市町は、その対策を県に要望しました。県は水源開発と施設整備を行い、昭和51年から水道用水の供給を開始し、現在に至っています。これらの設備は老朽化と地震対策の課題を抱えています。

■市水道会計の現状

市には水利権（※）が無いので、県の水購入費が経費の56%（名古屋9・9%）を占めています。人口減少や高齢化で水の使用量が減少傾向にあり、加えて今後、老朽設備の更新費増大も見込まれ厳しい経営環境が続きます。（詳しくは広報かに3月15日号をご覧ください）



■活動の経過

平成25年1月12日市内の集会で議長としての挨拶の中で、知事に対し、高額な市水道料金で高齢者は苦しみ若者の定住は難しい、県の水道料金を値下げして欲しいと直訴。知事は即、事情は良く理解したと返答されました。

議長時代に県水を受水している市町議長に呼びかけて県水値下げの共同行動をとる申し合わせをしました。同年6月の知事値下げ表明で休止し、議長退任で解散しました。

※水利権／水利河川や湖沼の水を取る権利で、河川法の公法上のものです。この権利は私法の適用を排除しないこと、また明治時代にできた河川法成立以前から取水していた多くの「慣行水利権」は社会的に認められています。



オープンした運動公園スタジアム

知って得するマメ知識 <vol.26>

ひつじの毛のお話し・ロハスの窓



防災ずきんを作ろう

予想される大地震や火災に備えて防災ずきん（辞書によっては防空頭巾）の必要性を改めて感じました。

「材料はもちろんウール素材で」と言うのが、羊毛100%の中古スーツやズボンを利用すれば極めて安価で難燃性抜群の頭巾ができます。

★二宮尊徳翁の「木綿着物は身を助く」は贅沢の戒め。新格言提案Ⅱ羊毛の着物は身を守る（昔の火事装束は羊毛製でした）

★地域通貨

今回の予算審議で一番揉めたのは、社会貢献制度モデル事業でした。これは認定された地域社会に貢献されている方に、1時間100円相当のポイントをあげ、地域通貨K-moneyに換える制度です。私は地域通貨制度には思い入れがあり、平成22年12月7日、現市長の当選初議会で、団地再生関連の一般質問の中で提案し、実施すると市長が答えています。是非成功させたい思いから審議過程で次の様な質問をしました。すでに無償ボランティアが定着している組織への対応は如何するのか。モデル事業の対象団体に選ばれた理由（基準）と、同一活動をしているのに外れた団体への説明は。100円のうち僅かでも大震災への発想は無かったのか。広く互助の精神普及にはボトムアップであるべき事業がトップダウンではないか、英語表記K-money等もしかり。愛称や対象事業は一般募集すべきだった。結果が全てなので注視とご協力のほどを。